

## 令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果

4月17日に、本校6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語科・算数科・理科の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

### 総合結果（国語科・算数科・理科）

国語科、算数科はともに全国平均をやや下回る結果となり、理科は全国平均よりやや上回る結果となりました。児童質問紙の中での傾向として、「授業の内容は分かりますか？」の問い合わせでは国語科約84%、算数科約75%、理科約91%と全国平均より上かほぼ同じであるが、「将来役に立つと思いますか？」の問い合わせでは国語科約80%、算数科約85%、理科約69%と全国平均より下となっています。他にも「普段の生活の中で活用できていますか？」の問い合わせでも低い傾向があります。また、「解答時間は十分でしたか？」の問い合わせでも低い傾向がありました。つまり、授業はまじめに受けているが、スキルとしての定着に至らず、活用に時間がかかる傾向があります。マイタイムや家庭学習などを通して授業で学んだことを知識・技能として定着させるとともに、既習の学習を活かして問題解決に向かうような授業改善を目指していきたいと考えています。

### 国語科より

昨年課題として挙げられていた「知識・技能」では、漢字で書き表す問い合わせでは正答率が低く、無回答率が高かったです。同音異語での誤答もあり、正しく使うことに課題が残りました。

一方で全国平均を上回る項目として文章と図表などを結び付けて必要な情報を見つけることでは大きく上回りました。目的をもって読んだり話し合ったりする力はついています。

ただし、調べたことをもとに書き表すことに苦手意識があるのか、記述式の無回答率が全国平均よりも高くなっています。課題だと考えています。

### 算数科より

分数を数直線上で表したり、棒グラフを読んだり、はかりの目盛りを読んだりする「図や表から読み取る力」は全国平均を上回りました。

しかし、複数の資料から必要な情報を選択して式に表したり、求め方を文章で説明したりする問題では無回答率も高くなりました。

また、図形の領域で課題がみられ、例えば、台形の意味や性質について理解しているかを問う問題や工夫して面積の求め方を説明する問題で全国平均を下回りました。補助線を入れるなど工夫しながら考える学習が必要だと考えます。

### 理科より

「エネルギー」、「生命」を柱とする領域で全国平均を上回りました。エネルギーでは、「電気」の回路や乾電池に係わる問題、「生命」では、受粉や種子に係わる問題で高い正答率がみされました。これらは、実験や観察を通して身に付いた力が発揮されたと思います。

一方で「粒子」、「地球」を柱とする領域で全国平均を下回りました。土の粒の大きさと水のしみこみ方の実験結果や考察から他の条件を予想したり、水の蒸発に関する知識と海の海面の変化を関連させて予想して表現する問題等、考えを説明することに課題がみされました。

### 児童質問紙調査から①



児童質問紙でも解き方がわからないときにいろいろな方法を試すより、あきらめてしまう傾向がみられました。

観察や実験をよく行ったと回答が大きく全国平均を上回りました。専科やスクールソポーターの先生の成果だと考えます。



## 児童質問紙調査から ②

図1 あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか？

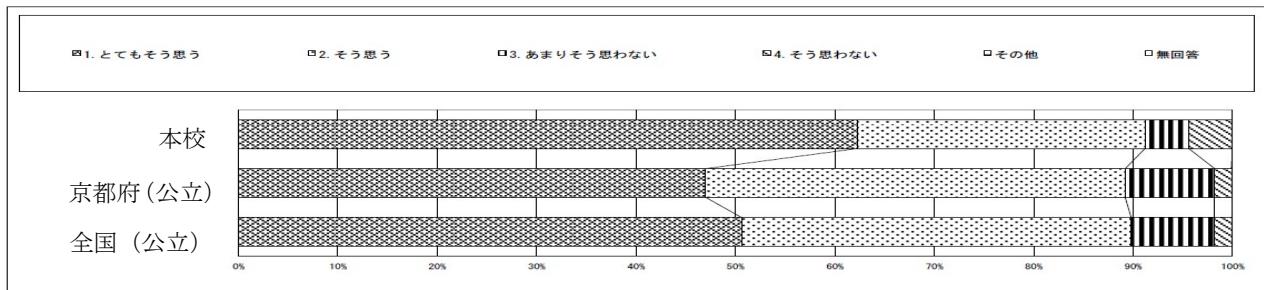
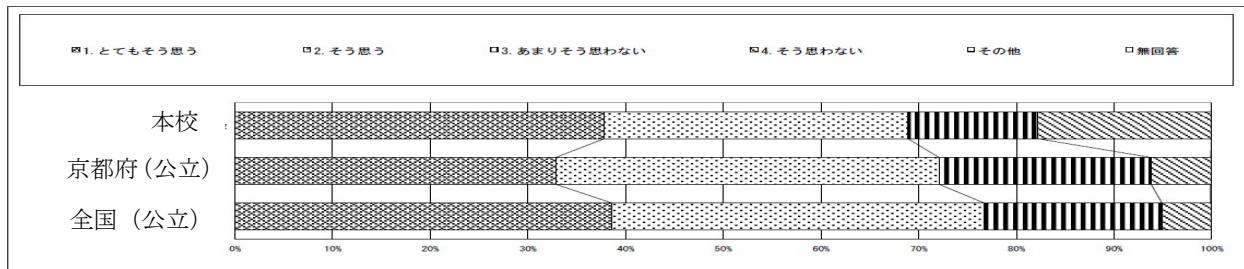


図2 あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができるとだと思いますか？



夏季休業明けからセカンドGIGAとして「iPad」が新しく配備されました。すでに醍醐小学校の児童は情報を収集することに関しては全国平均・京都府平均を大きく上回っています（図1）。しかし、情報の整理については「とてもそう思う」と答える児童も多い反面、「あまり思わない」も多くなります。さらにプレゼンテーションでは経験の少ない児童が増え、全国平均を下回っています（図2）。

一斉に黒板を向いて学ぶ学習から端末を活用して情報収集だけでなく、協働して情報を整理し、発表し、交流していく学習へと移り変わっています。文字だけでなく画像や音声も取り入れて効果的な発信の仕方を学んでいく必要があります。そのためには低学年から徐々にスキルアップを目指していきます。

## 全体を通してした本校の成果と課題

「学校に行くのは楽しい」と回答している児童は90%以上いて、学校生活におおよそ満足できているようです。さらに、「人の役に立つ人間になりたい」と回答している児童は98%に及んでいます。しかし、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか？」の質問には67%程度となります。漠然と役に立ちたいと思っているが、まだまだ将来の夢や目標がもてていないようです。「自分に良いところがあると思いますか？」の質問も70%程度でした。子どもたちが自分らしく自信をもって生きていけるよう、これからも学校教育活動を通して、子どもたちに自尊感情や自己肯定感を高められるよう支援していきたいと思います。

## 保護者の皆様へ

全国学力・学習状況調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性を伸ばしたり、課題を解決したりするためのものです。結果が学力のすべてを表しているものではなく、順位を競うものではありません。この結果を真摯に受け止め、今後の授業改善につなげていきたいと考えています。

また、学力は望ましい生活習慣や日々の学習習慣により定着していくものです。今後も学校と家庭、地域が連携して、子どもの健やかな育ちと学びの環境づくりに努めていきたいと考えています。引き続き、ご支援ご協力のほど、よろしくお願ひいたします。